

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成 31 年 3 月 19 日

事業所名 社会福祉法人至泉会 すこやか園 児童発達支援事

業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環 境 ・ 体 制 整 備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・ グループの状況によっては、部屋のスペースが少々狭いと感じるときはあるが、机の配置を工夫したり、活動で部屋を分けるなど、安全面に考慮しながら使用している。	
	②	職員の配置数は適切である	○		・ お子さんの状況に合わせて職員が動けるよう、国の規定した基準よりも 1 名多く配置している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・ お子さんが見通しを持って過ごせるよう、視覚的な手がかりを使用したり、物の配置を工夫している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・ 限られた空間ではあるが、活動に合わせて使用する部屋を分けるなど工夫している。 ・ 部屋、玩具等の消毒や清掃等、衛生面の配慮をしている。	
業 務 改 善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・ 毎日、職員全体でその日の業務について報告し共有している。検討事項については、必要に応じて話し合いの時間を設けている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・ 保護者からの意向があった場合は、職員全体で周知し検討し対応している。	

適切な支援の提供	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・第三者による外部評価報告を受け、改善すべき事柄について確認し、業務に取り組んでいる。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・内部研修や外部研修を実施している。また外部研修については報告をしたり、資料の回覧を行い職員全体で共有している。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・保護者同伴の療育であるため、日々の療育の中で、保護者のニーズや子どもの状態を確認した上で、サービス等利用計画も踏まえ作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・個別支援計画作成時に、標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの状態について保護者と確認をしている。 ・必要に応じて、発達検査、知能検査を実施し、子どもの状態像を整理し、保護者と共有する機会を設けている。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・保護者に伝わりやすいような表記、具体的な目標を示せるように意識している。 ・作成の際に会議を実施し、園全体で共有している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・毎月の活動内容は担当する職員同士で話し合い、チームで検討し実施している。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・子どもの状態を考慮しながら工夫している。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・個別活動の機会を作り、集団活動では見えにくいお子さんの状態を保護者と確認し、個別支援計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・その日の支援の様子や保護者とのやりとりを職員間で共有し、次の支援につなげている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・療育後にその日の子どもの様子や保護者と確認したことを共有し、次回の療育に生かしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・必要に応じて、児童発達支援事業で実施しているケース会議に相談支援専門員の参加を依頼している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・地域の特別支援学校の教諭を招いて保護者向け懇談会を開催し保護者が就学に向けて情報を得たり、イメージできるような場を設けた。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・利用開始に伴い、医師の意見書を頂いている。 ・保護者同伴であるため、医師の指示を、保護者を通じて確認し、療育を実施している。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有	○			

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携		と相互理解を図っている				
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の教育センターを中心に、情報共有をしている。</li> <li>・必要に応じて、小学校からの情報提供依頼に対応している。</li> </ul>	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼稚園、保育園を併用している児が多くいるため、園としては交流の機会は設けていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用頻度から併用児が多くなるため、園としては今後も現状維持の方向で考えている。</li> </ul>
	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同伴の療育であるため、課題のねらいを伝えつつ、目の前のお子さんの様子や言動の背景、発達状況について、その都度、保護者と確認をしながら進めている。</li> </ul>	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同伴であるため、日々の療育の中でお子さんへの対応の仕方、関わり方等について保護者と確認している。また、必要に応じて面談の機会も設けている。</li> <li>・年に1度、保護者向け講演会を実施している。</li> <li>・グループの状況に合わせて懇談会を実施している。</li> </ul>	
保 護	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			

者 へ の 説 明 責 任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・保護者同伴であるため、療育の様子、家庭や幼稚園・保育園の様子を保護者と一緒に確認をしながら助言を行っている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・利用頻度に合わせた支援等を行なっている。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・活動内容については、毎月“月の予定”を配付している。月の予定には、活動内容のみ記載のため、活動のねらいを各部屋に掲示している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報を扱う際には職員による2重チェックを行っている。また、個人を特定できないように配慮している。 ・個人情報の取扱いに関するチェックリストを作成し、毎月、各自で点検し、職員全体で共有している。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・年1回、市やボランティア団体と協力し、地域住民に向けた「ふれあい福祉まつり」を実施している。

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・利用形態が様々な施設であるため、利用児や保護者全員を対象に行うことが難しい。	・訓練実施日の対象となっていない保護者には説明の機会を設けていきたい。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	○		・保護者同伴であるため、医師の指示を保護者を通じて確認し、対応している。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・毎日、職員全体で行う振り返りの時間に発生状況などを報告し、共有している。 ・書面に残し半期ごとに統計をとり、傾向を把握し今後の対応に生かしている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・保護者同伴ということもあり、実際に起きていないが、必要な場合は、会議を通して子どもの支援について検討する等、組織的に対応している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。